

27-2 [江東地域の特性を生かした鉢花・花苗生産による地域ブランド商品の開発] ガーデンマム[®]の品種特性ならびに生育・開花に及ぼす定植本数

田旗裕也

(江戸川分場)

【目的】

ガーデンマム[®]は日本国外育成のキク品種群で、大型の草姿と、優れた分枝性に特徴があり、国内でも装飾用鉢花としての期待度が高い。本試験では近年発表された数品種について、江東地域における屋外普通栽培での生育・開花特性を明らかにする。また、定植本数が生育・開花に及ぼす影響を明らかにし、キク大鉢生産にむけた技術確立の資料とする。

【試験方法】

Yoder Brothers, Inc. 育成の黄花‘ジェシカ、ドナ、サニーロビン、サニーリンダ’、橙花‘ロビン’、赤花‘ダークトライアンフ、ラケル’、白花‘リンダ’の8品種を供試した。2002年6月18～20日に空輸された挿苗を場内で発根させ、7月4日に5号（径15cm）白プラ鉢へ1本及び3本植で仮植した。仮植後は一切の日長操作を行わず屋外で普通栽培を行い、7月18日に摘心した。8月23日に1本植は6号（径18cm）プラ鉢、3本植は7号（径21cm）プラ鉢へ定植した。仮植・定植時の用土は、試験場慣行配合土（赤土：腐葉土：無調整ピートモス＝5：3：2）を用い、基肥は用土1m³当たりマグアンプK(40-6-12)1kgとロング140日タイプ(14-12-14)2kgを施用した。生育期には液肥ピートマス(20-20-20)1000倍希釈液を適宜追肥した。供試鉢数は、1品種あたり両定植本数区とも50鉢とした。なお、対照品種ボサギク‘黄多摩’は6月7日に挿木、6月21日に7.5cmポット仮植、8月14日に4.5号（径14cm）プラ鉢へ1本定植し、仮植後に5回の摘心を行った（最終摘心日＝8月20日）。開花割合の推移を調査し、開花盛期に生育調査を行った。

【成果の概要】

1) 開花の早晚性と定植本数：各品種とも‘ボサギク’に比べ、開花始日が早く、また短い日数で満開に達した。特に‘ジェシカ’は開花始日が早く、開化始から満開までの日数も他品種に比べ短かった。同一品種内では開花の早晚に対し、鉢サイズと定植本数の影響は小さかった（表1、図1）。

2) 満開時の生育・草姿と鉢サイズ・定植本数：黄花‘ドナ、ジェシカ’の満開時生育を、6号鉢1本植と7号鉢3本植で比較すると、株高・株張とも7号鉢3本植の方がやや大きかったが、鉢サイズ相応の適切な草姿バランスであった。鉢あたり花数は、‘ジェシカ’は6号鉢1本植と7号鉢3本植で大差なかったが、‘ドナ’は7号鉢3本植が明らかに多かった。輪径は両品種とも7号鉢の方が大きい傾向があったが、その差は小さかった（図2）。

3) 以上の結果、ガーデンマム[®]はボサギクと比較して開花が早く、摘心回数が少なく省力的な生産ができることから、大鉢生産に有利である。定植本数が開花早晚性に及ぼす影響は小さく、出荷時期への対応は、品種選定が重要である。

表1 ガーデンマム[®]品種の
着色開始日と開花開始日
(上段: 6号鉢1本植 下段: 7号鉢3本植)

品種	着色開始日	開花開始日
ジェシカ	9月23日 (1.5)	9月29日 (1.3)
	9月26日 (0.9)	9月29日 (1.1)
ドナ	9月30日 (0.9)	10月2日 (0.8)
	10月1日 (0.7)	10月2日 (0.6)
サニーロビン	10月2日 (4.7)	10月6日 (3.5)
	10月3日 (3.0)	10月7日 (2.5)
ロビン	10月4日 (1.4)	10月5日 (1.4)
	10月3日 (1.4)	10月6日 (1.3)
サニーリンダ	10月5日 (3.5)	10月8日 (3.6)
	10月8日 (2.5)	10月10日 (1.7)
ダークトライアンフ	10月7日 (3.0)	10月11日 (1.4)
	10月7日 (2.5)	10月10日 (2.0)
ラケル	10月15日 (0.0)	10月18日 (0.9)
	10月15日 (0.0)	10月19日 (1.1)
リンダ	10月11日 (1.9)	10月13日 (0.9)
ボサギク '黄多摩'	10月16日 (1.4)	10月20日 (1.6)

注) 数値は平均月・日 (標準誤差)
ボサギク '黄多摩' は4.5号鉢1本植

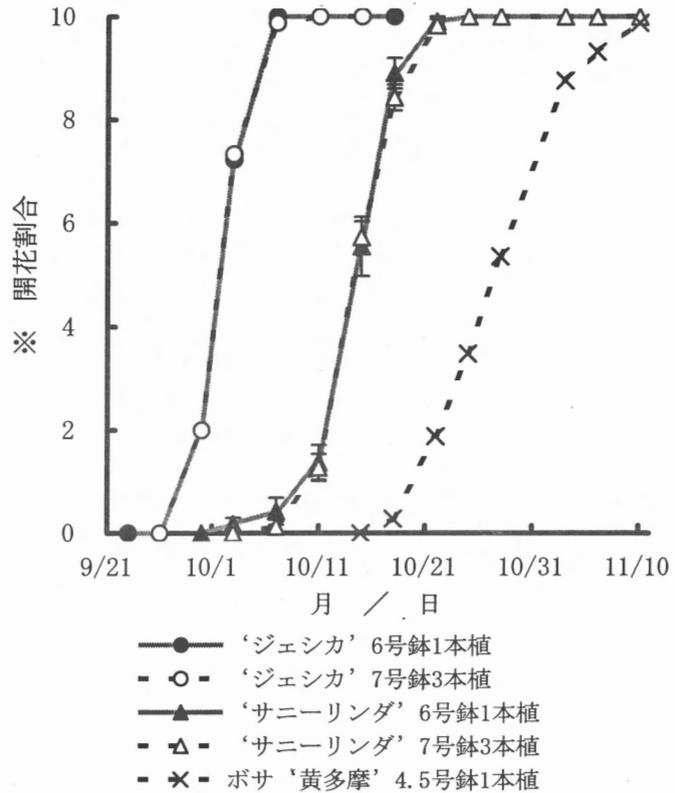


図1 6号鉢1本植および7号鉢3本植栽培における
'ジェシカ、サニーリンダ' (黄花) の開花推移
注) * 開花割合=開花数/着蕾数 (ノ鉢)
図中の上下線は95%信頼区間 (n=40) を表す。

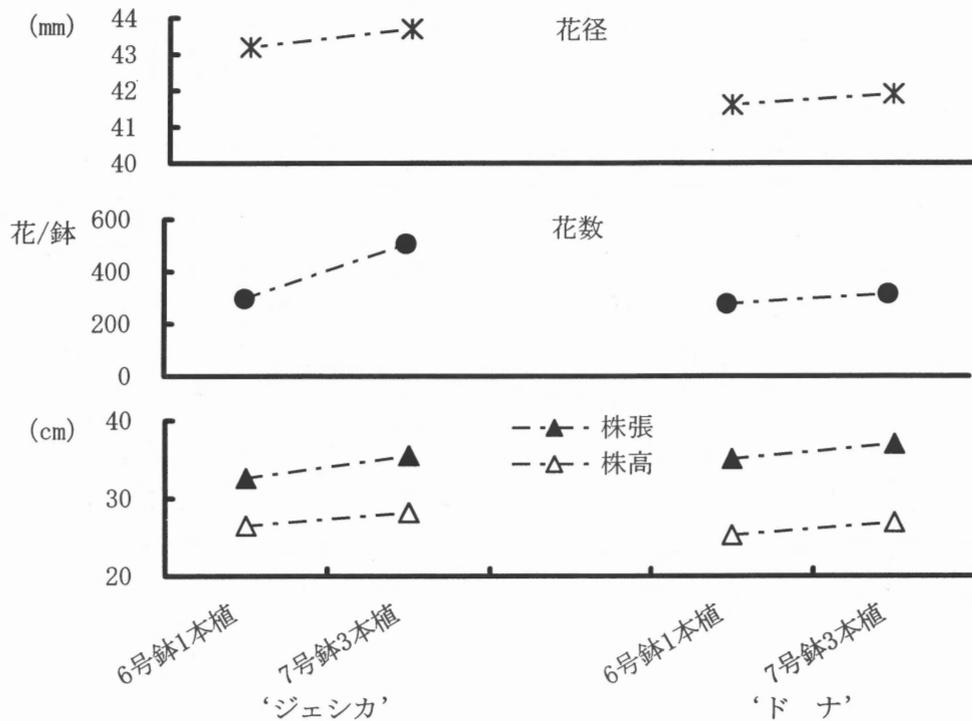


図2 黄花ガーデンマム[®] 'ドナ、ジェシカ' の満開時草姿
注) 調査日: 10月9日